

<まず避難、次に解毒と免疫力強化、そして無料定期検診・治療の確率を!!>

今、わたしに出来ることの
ひとつとして

放射能から
身を守るための

『福島に梅どみ支援』を!!

講師・甲斐等さん <広島ジュノの会代表>

日時・11月12(土) 13:30~15:00

質疑応答が終り次第

17:00位まで『貼り薬』作製作業予定

ところ 県 社会福祉会館・2F ボランティア・ヒーロー
(静岡市葵区駿府町)

参加費 500円

8月、福島関連の情報をネット検索して見つけた <「ジュノの会」福島講演>が
気になり 8月27日に福島に「ジュノの会代表・甲斐さん」の講演を聞きにいきました。

「ジュノの会」は 1989年9月に設立。「ヒロシマの医師をチェルノブイリへ・
チェルノブイリの子ども達をヒロシマへ」運動を始め、1・甲状腺検診・治療協力、2・小児
白血病治療協力、3・血液感染症予防 4・ウクライナ・広島の被爆者交流-チェルのブイリ被災者への直接支援
という4本柱で、計42回の派遣と計27回の招致を行ってきたこと、..

福島原発事故以来、福島NPO「シャローム」を通じて「体内に入ってしまった放射能
を「解毒・排泄するために「梅どみ・貼り薬 入浴剤」送り続けている事を知り

「今、自分に出来ることのひとつ」として、「ジュノの会」の事を知ってもらい福島の
皆さんの健康を支えるお手伝いが出来たら、. . . と思い、講演会を企画しました。

多くの方のご参加お待ちしております。



054 (260) 9149 FAX

連絡先

ごとう 和

☆ 090 7027 3781

馬場とし子

☆ 070 5034 0920

チェルノブイリ原発の大惨事のあと、旧ソ連全土から60万人とも80万人とも言われる人びとが招集されて「事故処理作業」に従事した。今ではもうほとんどの人びとが生存していないと言われる「事故処理作業」リクビダートルである。チェルノブイリ事故で最も大きな被害・障害を受けたのは「事故処理作業」であった、と言われる。その多くは次々に病魔に侵され、5年、10年、15年.....後には、その罹患した数々の病気が重篤化する。しかし、国家経済が立ち直らない状況下では、彼らは、初歩的な医療さえ受けることができず、福祉の助けを得ることもなく、不自由と貧窮の中で酷い死を迎えなければならなかった。とりわけ、ソ連崩壊後の各共和国に散り散りになっていった「事故処理作業」の場合、耐え忍ばなければならなかった運命は極めて過酷なものであったと言えよう。こうした「事故処理作業」が直面した健康被害の全体像は、今なお闇の中にある。

いま、日本で「除染作業」と呼ばれているものは、少し相違点はあるにせよ、従来「事故処理作業」と呼ばれてきたものとほぼ同一のものである。「事故処理作業」を「除染作業」と言い換えるゴマカシはもうやめよう。「緊急時避難準備区域」が解除になった広野町で、「孫が帰って来れるように除染しておきたい」と、家の軒に溜まった堆積物を手で除去している人の姿をテレビが映していた。手袋はつけているが、マスクはしていない。軒の堆積物は鼻先にある。内部被曝は、口から入ってくる食べ物と、鼻から入ってくる空気に含まれている放射性物質によって引き起こされる。空気に含まれている放射能を体内に入れまいとすれば、放射能のない場所に避難するか、鼻から入るのを防ぐために、内側を少し水分で湿らせたマスクをはめておくか、いずれかしかあるまい。だから、「その場」にどうしてもいなければならないのであれば、せめてマスクをはめておくべきだし、そのような指導がなされるべきである。私が見た限りでは、同じ映像に映っていた人たちの中で、マスクをはめていた人は一人もいなかった。

一体どうしたんだ、この国は？ という驚きの連続である。

「緊急時避難準備区域」――これは命名通り、原発の状況によって「緊急時」が訪れた時は避難するよう準備しておくべき区域のことであろう。そして、原発の状況が一定程度落ち着いたらと政府が判断した時には「緊急時」が去ったと判断されることになり、したがって「緊急時避難準備」も必要なくなるわけである。つまり、この場合、住民にとって安全であるか否かは考慮される必要がない。もともと、住民の健康にとって避難が必要な区域であるか否かといった観点は考慮されておらず、原発事故の状況にとって「緊急時」であるか否かだけが問題とされているからである。数百万人、場合によっては一千万人を超えるかもしれない住民のいのちと健康に対する配慮が、最初から欠けている。

チェルノブイリ事故では60万人とも80万人とも言われる「事故処理作業」が動員された。いま日本では、これほどの放射能汚染を引き起こしているながら、「事故処理作業」は動員されていない。

はたして、「事故処理作業」がいなくて「事故処理」はできるのか。今の日本では「事故処理作業」は要らない、ということのようである。なぜなら、日本で行われているのは「事故処理作業」ではなく「除染作業」であり、しかも、「除染作業」を行うのは一般住民なのであるから。――これが今の日本の常態なのであるか。世界が、「唯一の被爆国」日本の、ありのままの姿を見ている。

「事故処理作業」であれ「除染作業」であれ、放射能を取り扱う作業は、十全の防御方法に習熟した人びとによって、受ける線量に細心の注意を払いながら行われなければならない。当然のことであるが、一般住民は「事故処理作業」の仕事の現場に居住してはいけなないのである。

ジュノーの会の郵便振替の口座番号は以下のとおりです。

郵便振替 = 「01370-0-29460・ジュノー基金」

口座名義は「ジュノー基金」です。ジュノーの会ではなく、

「ジュノー基金」です。

通信欄か空白に、「梅ドミ」と明記してください。

他銀行やネットから振込んでいただくときは、以下の振込先をお願いします。

<他銀行から振込む場合の振込先>

銀行名 ゆうちょ銀行

■金融機関コード 9900

■店番 139

■預金種目 当座

■店名 一三九店 (イチサンキウウ店)

■口座番号 0029460